



2013年度 第2四半期決算説明会

2013年 11月 11日

日本軽金属ホールディングス株式会社

目次

1. 2013年度 第2四半期決算
2. 2013年度 業績予想
3. 中期経営計画の進捗

目次

1. 2013年度 第2四半期決算
2. 2013年度 業績予想
3. 中期経営計画の進捗

第2四半期決算 — 前年同期比



(億円)

	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	増減
売上高	1,939	1,837	+102 (+5.6%)
営業利益	51	52	△1 (△1.9%)
経常利益	41	36	+5 (+14.8%)
当期純利益	17	23	△6 (△28.4%)

セグメント情報 — 前年同期比



(億円)

	売上高			営業利益		
	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	差異	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	差異
アルミナ・化成品、 地金	513	472	+41 (+8.6%)	21	25	△4 (△18.0%)
板、押出製品	338	315	+23 (+7.4%)	11	2	+9 (+496.7%)
加工製品、 関連事業	628	614	+14 (+2.2%)	26	35	△9 (△25.7%)
箔、粉末製品	460	436	+24 (+5.5%)	8	4	+4 (+150.1%)
管理・共通	—	—	—	△15	△14	△1
合計	1,939	1,837	+102 (+5.6%)	51	52	△1 (△1.9%)

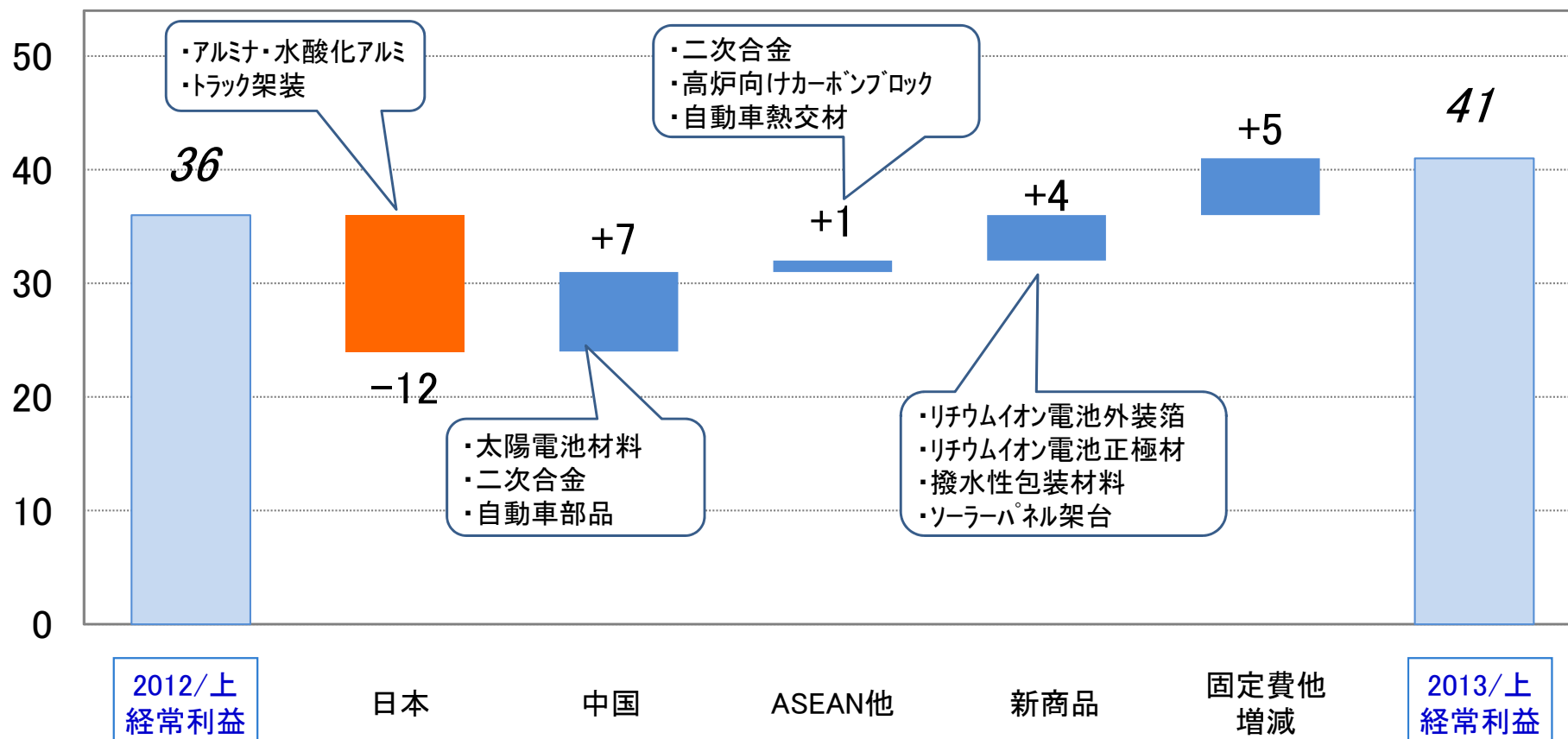
経常利益変化要因 - 前年同期比



2012年度 第2四半期 +36億円

⇒ 2013年度 第2四半期 +41億円 5億円増加

(億円)



主要会社の業績 — 前年同期比



(億円)

	2013年度第2四半期			2012年度第2四半期		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属 (単体)	593	△13	2	568	△5	26
東洋アルミニウム (連結)	463	9	8	440	5	0
日軽エムシーアルミ (連結)	264	8	7	227	3	3
日本フルハーフ (連結)	258	9	9	256	16	16
日軽金アクト	170	7	7	153	8	8

目次

1. 2013年度 第2四半期決算
2. 2013年度 業績予想
3. 中期経営計画の進捗

通期業績予想 — 前期比



(億円)

	2013年度 予想 (10/30)	2012年度 実績	増減
売上高	4,000	3,719	+281 (+7.6%)
営業利益	120	82	+38 (+47.2%)
経常利益	100	69	+31 (+45.5%)
当期純利益	50	34	+16 (+49.0%)
有利子負債	1,850	1,888	△38
ネットDEレシオ	1.5倍	1.5倍	—
ROCE	4.8%	3.7%	+1.1p

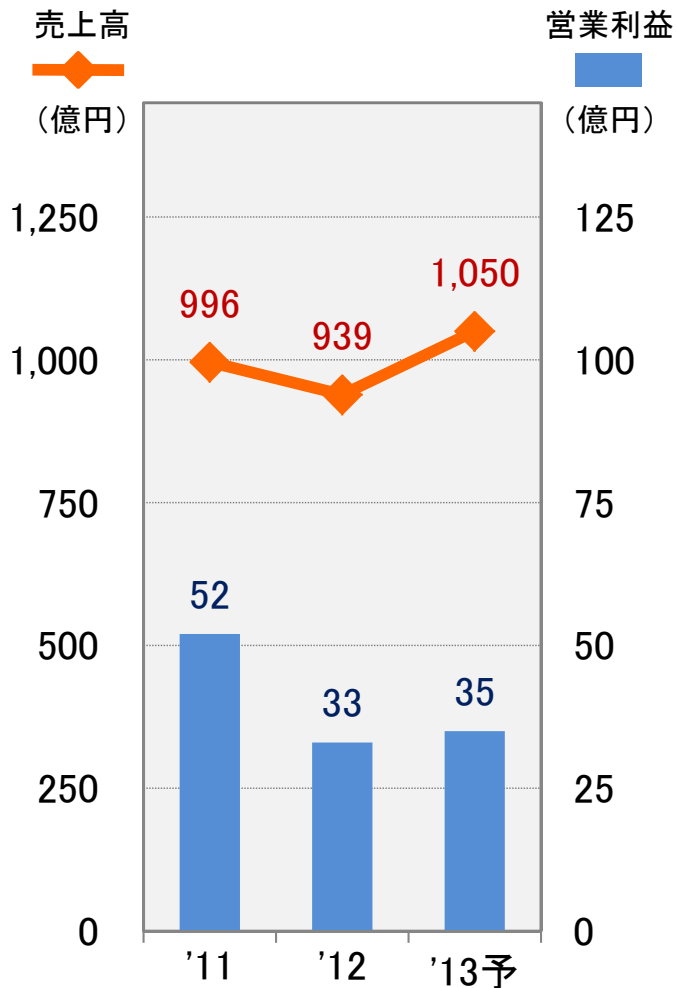
セグメント情報 — 前期比



(億円)

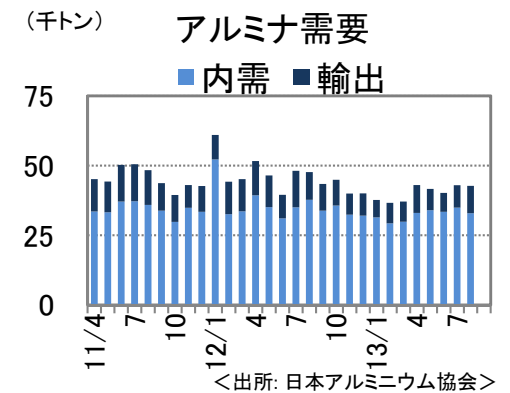
	売上高			営業利益		
	2013年度 予想 (10/30)	2012年度 実績	増減	2013年度 予想 (10/30)	2012年度 実績	増減
アルミナ・化成品、 地 金	1,050	939	+111 (+11.8%)	35	33	+2 (+6.9%)
板、押出製品	680	632	+48 (+7.7%)	25	17	+8 (+49.3%)
加工製品、 関連事業	1,310	1,262	+48 (+3.8%)	60	70	△10 (△14.0%)
箔、粉末製品	960	886	+74 (+8.3%)	30	△8	+38 (—)
管理・共通	—	—	—	△30	△30	—
合 計	4,000	3,719	+281 (+7.6%)	120	82	+38 (+47.2%)

アルミナ・化成品、地金



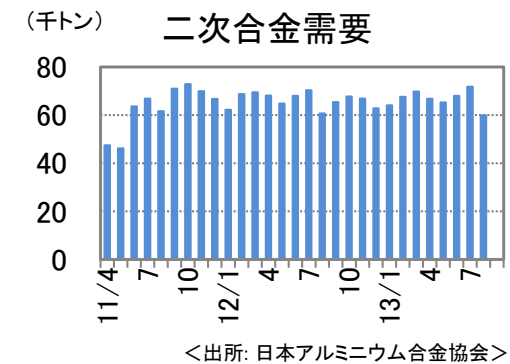
アルミナ・化成品

- アルミナ・水酸化アルミでは、高純度アルミナの引合いが増加しつつあり、一般的な出荷も上向く見込み
- 化学品は概ね堅調な推移を見込む
- 円安により、原料水酸化アルミやエネルギー価格が上昇し、収益を圧迫



日軽エムシーアルミ

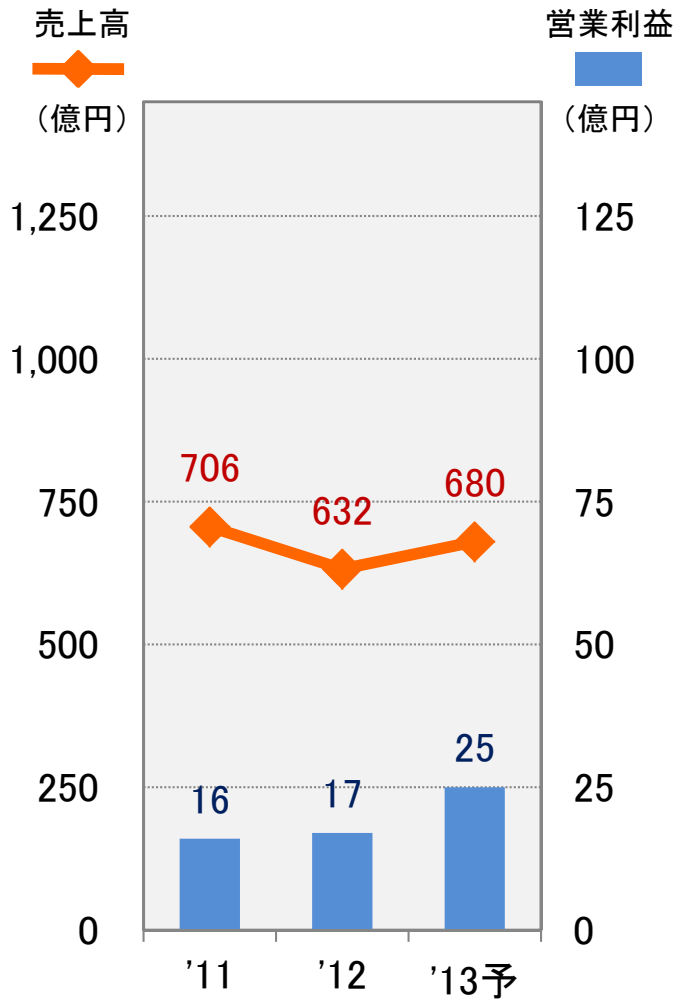
- 国内販売数量は前年並みにとどまるが、円安を背景に価格是正が進む
- 海外市場では、中国での堅調が続く
- 落ち込んでいるタイ、アメリカでも、徐々に上向くと見込む



日軽エムシーアルミ販売量 (千トン)

	13年度 上期			13年度 下期			13年度 合計		
	実績	前年	増減	予想	前年	増減	予想	前年	増減
国内	69.6	68.1	+2%	69.0	68.7	0%	138.6	136.8	+1%
海外	49.9	51.7	△3%	53.1	48.8	+9%	103.0	100.5	+2%
合計	119.5	119.8	0%	122.1	117.5	4%	241.6	237.3	+2%

板、押出製品



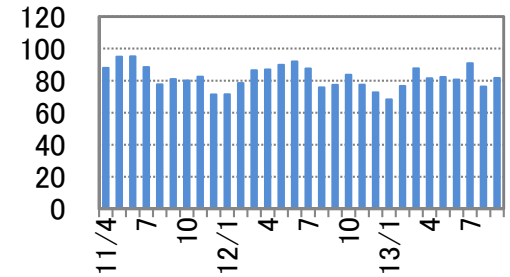
板

- コンデンサ向け、厚板など、電機・電子向けを中心に出荷に伸びが見えない
- 一方で輸送分野は鉄道車両、トラック向けを中心に増加しているが、全体ではほぼ前年並みに留まる

板事業部販売量 (千トン)

	13年度 上期			13年度 下期			13年度 合計		
	実績	前年	増減	予想	前年	増減	予想	前年	増減
		36.0	36.4	△1%	38.7	37.4	+3%	74.7	73.8

(千トン) 板製品需要(内需)



<出所: 日本アルミニウム協会>

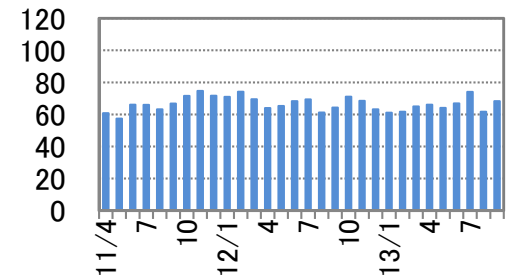
日軽金アクト

- 輸送関連では、トラック、鉄道向けの堅調が続き、自動車部品も回復が見込まれる
- OA機器向けなど、電機・電子の低迷続くが、産業機器関連が好調で、全体の販売量は前年に比べ増加する見込み

日軽金アクト販売量 (千トン)

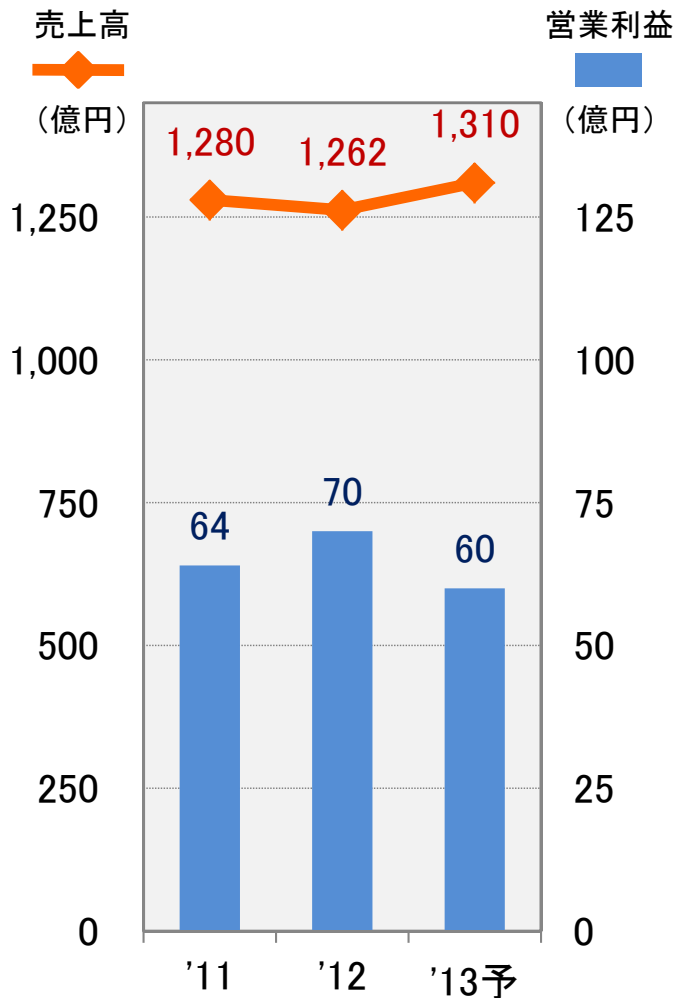
	13年度 上期			13年度 下期			13年度 合計		
	実績	前年	増減	予想	前年	増減	予想	前年	増減
		19.0	17.8	+7%	19.6	17.7	+11%	38.6	35.5

(千トン) 押出製品需要(内需)



<出所: 日本アルミニウム協会>

加工製品、関連事業



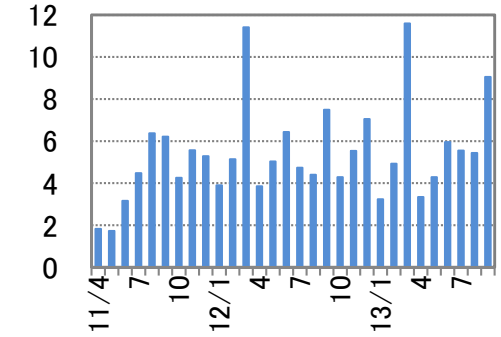
日本フルハーフ

- トラック需要は第1四半期に一時的に減少
- 全般的には、03年からの排ガス規制車両の買換需要や震災復興需要により、好調だった12年度並みとなる見込み
- 温度管理車が好調
- トレーラ需要も堅調に推移する見込み

日軽パネルシステム

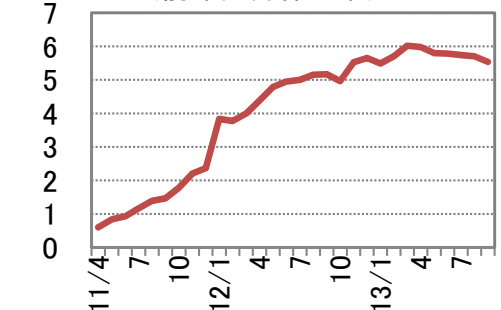
- 冷凍・冷蔵分野で、コンビニの出店増が続いており、関連する食品加工工場、低温流通設備向けの大型物件が好調に推移する見通し
- コンビニ、スーパー向け店舗物件も増加
- 内装分野では、半導体・液晶関連のクリーンルーム向けを中心に好調で、増加を見込む

(千台) 普通トラック登録台数



<出所: 日本自動車販売協会連合会>

(%) コンビニ店舗数 (前年同月伸び率)

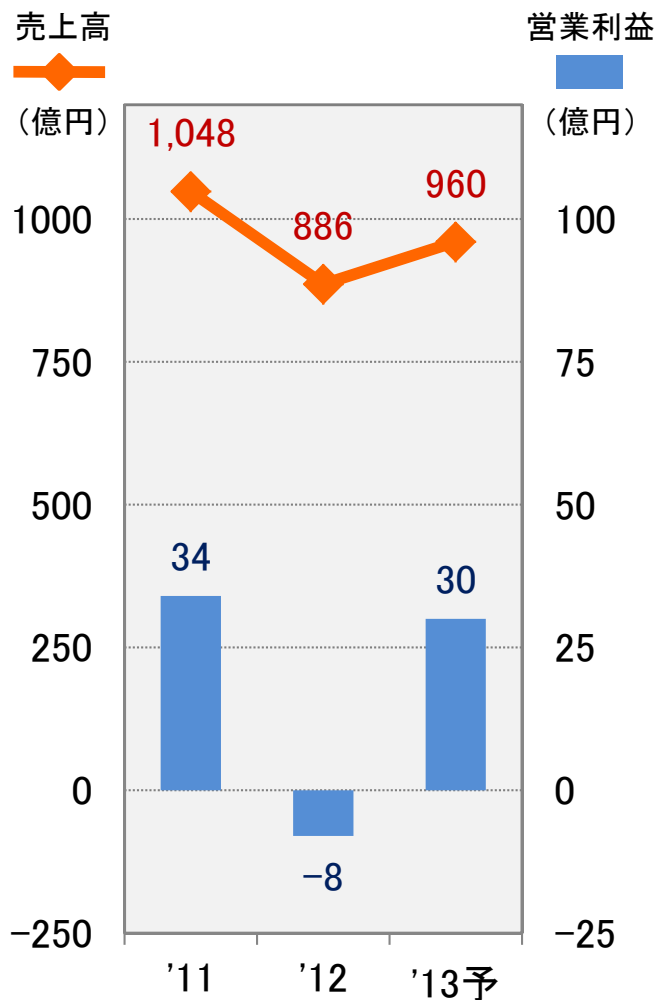


<出所: 日本フランチャイズチェーン協会>

箔、粉末製品



東洋アルミニウム



<箔事業>

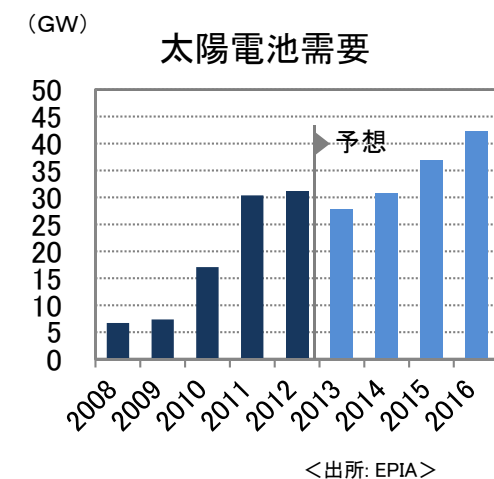
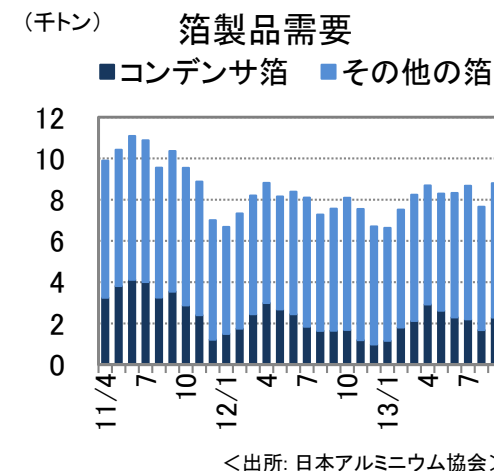
- コンデンサ箔の需要低迷続く
- 一般箔も全般的には弱含みの推移となったが、医薬品向け加工箔、食品向け撥水性加工箔などの新製品が着実に増加
- LiB向け外装箔、正極材も好調に推移

<パウダー・ペースト事業>

- 飲料パッケージ向けインキ用や新製品の化粧品用顔料が堅調
- 自動車用、家電・プラスチック用塗料向けペーストの苦戦が続く
- 耐火物用、触媒用などの機能性パウダーも減少

<ソーラー事業>

- 中国太陽光発電市場、日本のメガソーラー需要など、市場回復の見込み
- 販売単価は下げ止まっているものの、顧客の値下げ要求が厳しく、一層のコストダウンを模索



主要会社の業績予想 — 前期比



(億円)

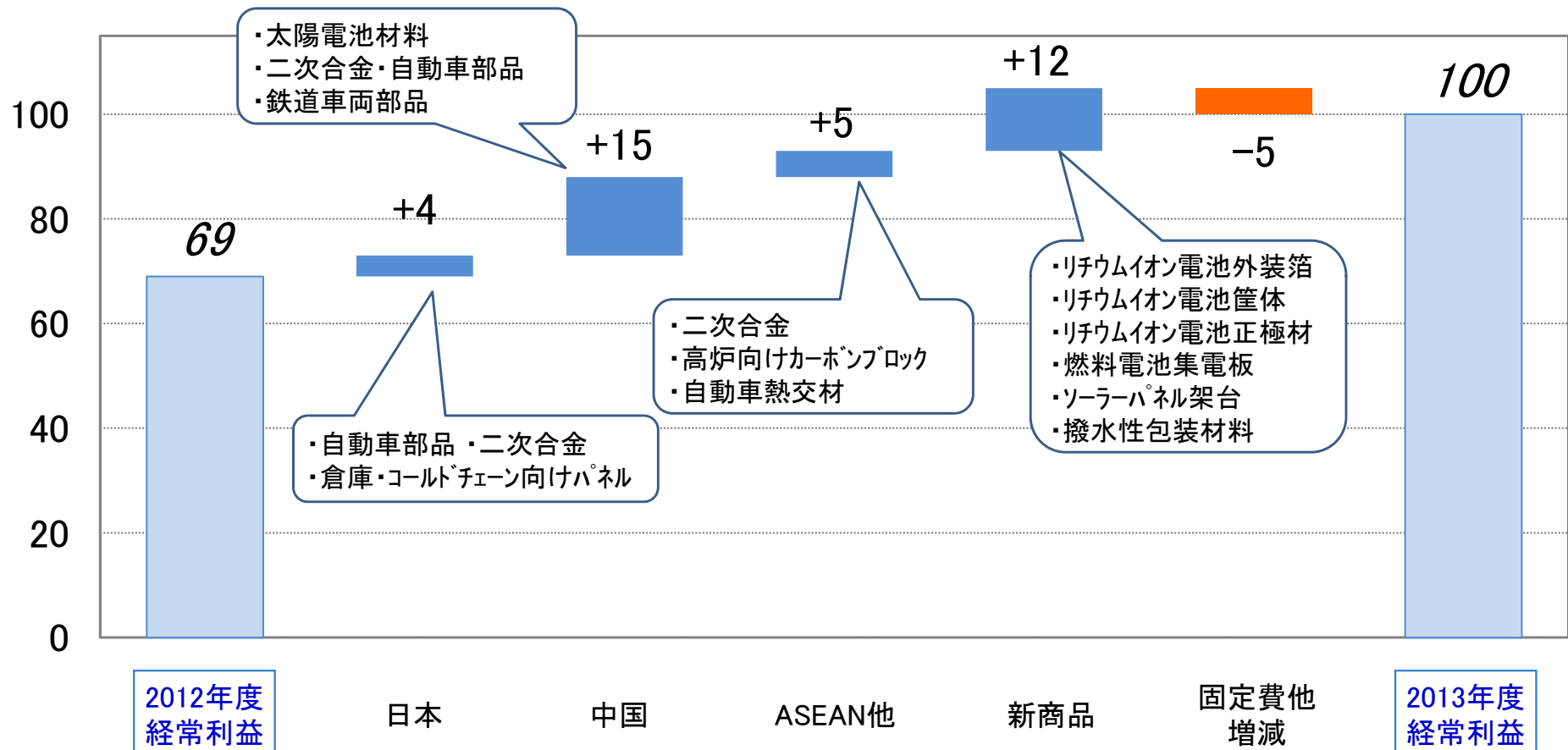
	2013年度 予想			2012年度 実績		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属 (単体)	1,249	△25	△9	1,137	△19	16
東洋アルミニウム (連結)	968	27	25	893	△7	△7
日軽エムシーアルミ (連結)	525	12	10	457	5	5
日本フルハーフ (連結)	528	23	22	506	29	28
日軽金アクト	344	18	18	299	14	14

経常利益変化要因 - 前年同期比



2012年度 +69億円 ⇒ 2013年度 +100億円 31億円増加

(億円)



目次

1. 2013年度 第2四半期決算
2. 2013年度 業績予想
3. 中期経営計画の進捗

基本方針



持株会社体制のもとでグループ連携を強化し、
連結収益の最大化を図る。

<基本方針>

1. 地域別 × 分野別戦略による事業展開

⇒資源投入する分野を地域と市場のマトリクスから選別。収益最大化を図る

2. 新商品・新ビジネスによる成長ドライバー創出

⇒顧客視点に立ったグループ連携による開発活動で高付加価値商品創出

3. 企業体質強化

⇒課題事業収益の早期回復とグループ人財の育成と有効活用

2015年度 数値目標

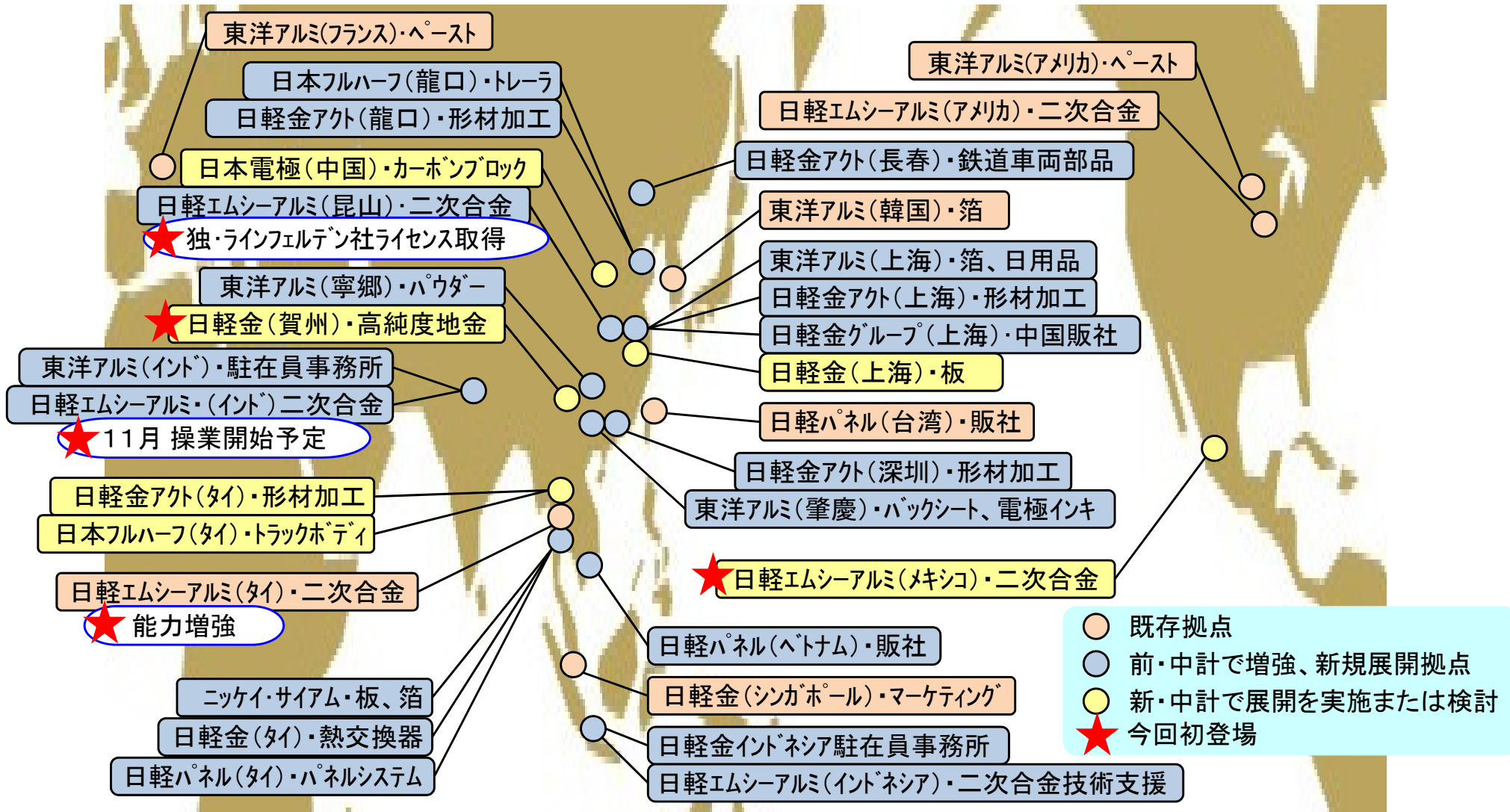


(億円)

	<2012年度>	<2015年度>
売上高	3,719	4,400
営業利益	82	250
経常利益	69	220
当期純利益	34	140
期末有利子負債	1,888	1,750
ネットD/Eレシオ	1.5倍	1.1倍
R O C E	3.7%	8.9%
海外売上高比率	16.8%	25.0%

<前提>
 アルミ地金: 230 円/Kg
 為替: 85 円/US\$

【地域別×分野別】海外展開



グローバル x 自動車合金



日軽エムシーアルミ (以下、NMA)

- 日系自動車メーカーの進出が相次ぐインド、メキシコで合弁会社設立
- タイ、中国の既存拠点においても事業強化を実施

インド

インドの合金最大手CMRとの合弁

CMR Nikkei India Private Ltd.

- 資本金： 2.5億ルピー(約3.8億円)
- 出資比率： NMA 26%
- 生産能力： 3,500mt/月
- 操業開始： 2013年11月

タイ

既存拠点の生産能力増強

2,500mt/月⇒3,300mt/月

メキシコ

米合金メーカー TST Inc. との合弁

TST Nikkei Metales S. de R.L. de C.V.

- 資本金： 5百万USD(約5億円)
- 出資比率： NMA 45%
- 生産能力： 2,500mt/月
- 操業開始： 2014年4月

中国

- 独メーカーから同社開発合金※の生産ライセンス取得、中国進出の欧州自動車メーカー向けなどに販売
- NMA開発合金の欧州展開も図る

※ ラインフェルデンアロイズ社のダイカスト用合金 Silafont-36。
フレームやエンジン回り部材用として欧州メーカーに人気が高い

中国 × 電機・電子向け高純度地金



2013年9月、広西賀州投資集団(以下、賀投集団)と高純度地金製造の合併、
「広西賀州日軽桂銀科技有限公司」を設立

- ・資本金： 5, 000万人民元(約8億円)
- ・日本軽金属： 49%、賀投集団： 51%

- 日軽金グループが持つ高純度化技術(偏析法)
 - 賀投集団の電力インフラ、電子材料企業等の経営資源
- ⇒ 拡大が見込まれる中国の高純度地金市場において、品質/コストの優位性を確保し、収益向上を図る



広西賀州投資集団

- ・ グループ内に、エネルギー、電子関連などの企業を擁する国有企業
 - ・ 桂東電力 … 発電
 - ・ 広西桂海 … アルミ板圧延、箔圧延
 - ・ 桂東電子 … 電極箔エッチング、化成処理
 - ・ 吉光電子 … アルミ電解コンデンサー など

電機・電子分野の高純度地金ニーズ

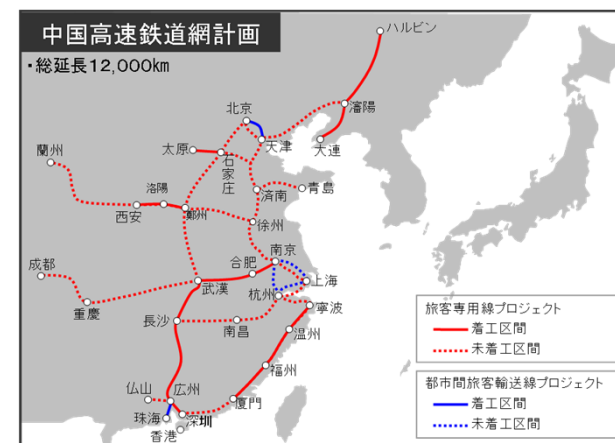
- ・ アルミ電解コンデンサー電極箔
- ・ ターゲット材
- ・ ポリゴンミラー
- ・ ボンディングワイヤー
- ・ 磁気ディスク基板 など

中国 x 輸送 … 長春日軽軌道客車装備

- 長春日軽軌道客車装備
当社の機械加工・接合技術を軸に、鉄道客車、電車、地下鉄の車両、およびその他輸送設備に使われるアルミ部品の製造・販売事業を行う
- すでに地下鉄車両用部品で納入実績あり。主要都市の地下鉄車両構体なども受注

中国の鉄道車両市場

- ◆ 中国では鉄道投資が2012年後半から回復
- ◆ 2013年の鉄道車両購入投資は前年比+18.9%の1,070億元の計画
- ◆ 高速鉄道以外にも、都市交通や都市間交通の整備のための鉄道投資が増加
- ◆ 鉄道車両メーカーでは、開発時間短縮、コストダウンのため、“標準車両化”が進む



新規展開拠点の収益向上



ASEAN x 電機・電子・・・日軽金・熱交

- 各国の省エネ規制が厳しくなり、メーカー各社は高機能モデルを開発
- 価格競争力向上に向け、コストダウン活動（部品現地調達、薄肉化など）に取り組み中
- ASEAN・インド以外の地域にも拡販
- 14年モデルの受注が始まる

ASEAN x 健康・食品・・・日軽パネルシステム

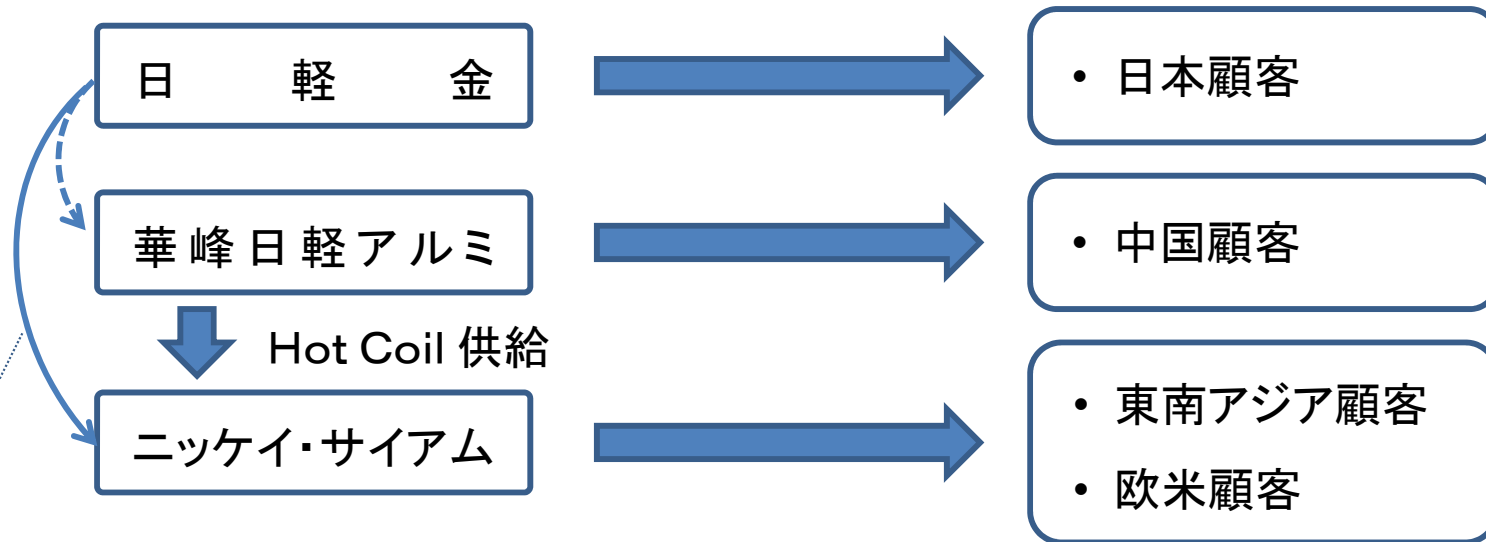
- 顧客の値下げ要求が厳しく、ローカルメーカーとの価格競争も厳しい
- コストダウンに取り組むとともに「新商品」の投入に注力
 - 1) 外壁パネル
 - 2) ローカル仕様高機能パネル
- 13年下期に入り漸く引き合いが増え、受注物件も増加傾向に
- パネルの仕上がりが高評価を受けており、リピート物件も出ている

グローバル × 自動車熱交材



板事業（日軽金、ニッケイ・サイアム、華峰日軽アルミ）

- 薄肉・高強度・高熱伝導性を有する自動車熱交用板材のグローバル供給体制の確立へ



フレックスキャスター（FC）材を使った世界最薄・45ミルのラジエーター用フィン材※は、日本からHot Coil をニッケイ・サイアムに供給。現地で冷間圧延～仕上げを施し、納入。今後、中国向けは華峰日軽アルミからの販売を検討。

※ 大手熱交換器メーカーとの共同開発。2012年から、同社の“Global Standard Radiator（GSR）”向けに供給開始。

加工展開の強化・・・(株)東陽理化学研究所への資本参加

➤ (株)東陽理化学研究所

- 本社：新潟県燕市、創業：1950年、資本金：約8億5千万円
- 表面処理など、金属加工技術に優れ、海外メーカーにも定評
- 2004年に中国進出、IT機器の筐体(Apple社向け)などを製造

⇒ 加工展開を指向する板事業にとってベストパートナー

➤ 同社保有の自己株式(発行済株式の23.6%)を取得することで合意

板・箔の連携強化による品質、コスト競争力の向上

➤ 日軽金グループの圧延設備

- スラブ鑄造：日軽金・名古屋、蒲原、ニッケイ・サイアム(以下、サイアム)
- 板圧延：日軽金・名古屋、サイアム
- 箔圧延：東洋アルミ・八尾、東海アルミ箔・蒲原、東洋千葉、サイアム

➤ 最適生産体制の確立によりコスト競争力を強化、収益最大化を目指す

アルミにこだわり、 アルミを超えていく



本資料についての注意事項

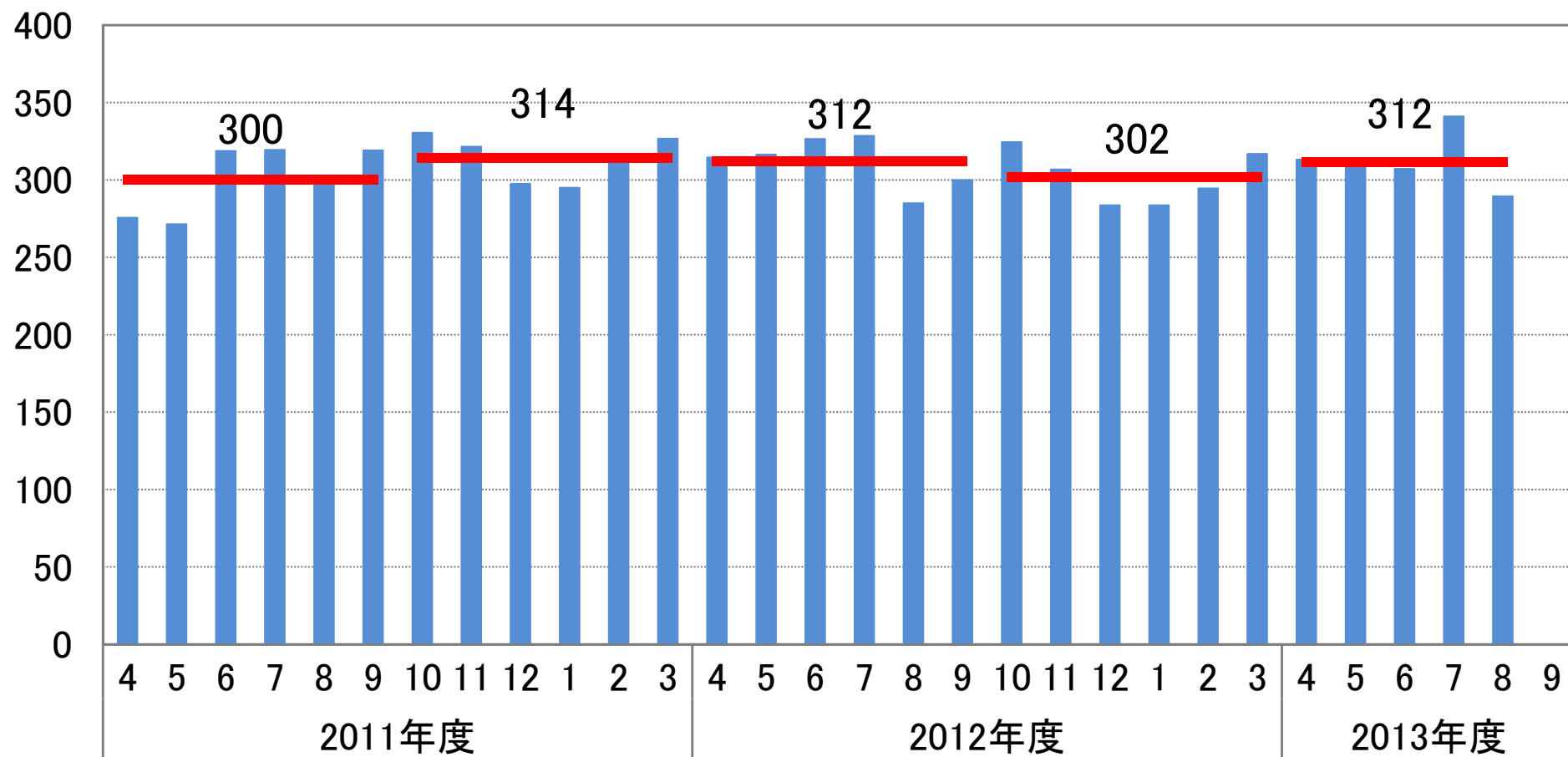
1. 本資料は2014年3月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本資料のなかで記述しております将来の動向や業績等に関する見通しは、歴史的事実でないためリスクと不確定な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループを取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供する製品やサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。
3. 本資料の中で記述しております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、今後予告なく変更される場合があります。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

補足資料

国内アルミ製品総需要の推移



(千トン)



<出所:日本アルミニウム協会>

第2四半期決算 — 期初予想比



(億円)

	2013/4-9 実績	2013/4-9 期初予想	増減
売上高	1,939	1,900	+39 (+2.1%)
営業利益	51	65	△14 (△20.9%)
経常利益	41	50	△9 (△18.5%)
当期純利益	17	25	△8 (△33.8%)

経常利益



(億円)

	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	前年同期比	2013/4-9 期初予想	期初予想比
経常利益	41	36	+5	50	△9

(億円)

前期比 +5億円 の内訳	
営業利益の減少	△1
為替差額の改善	+10
その他	△4

(億円)

期初予想比 △9億円 の内訳	
営業利益の減少	△14
為替差額の改善	+4
その他	+1

当期利益



(億円)

	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	前年同期比	2013/4-9 期初予想	期初予想比
当期利益	17	23	△6	25	△8

(億円)

前期比 △6億円 の内訳	
経常利益の増加	+5
特別損失の減少	+9
税金費用の増加	△20

(億円)

期初予想比 △8億円 の内訳	
経常利益の減少	△9
税金費用の減少	+1

セグメント情報 — 期初予想比



(億円)

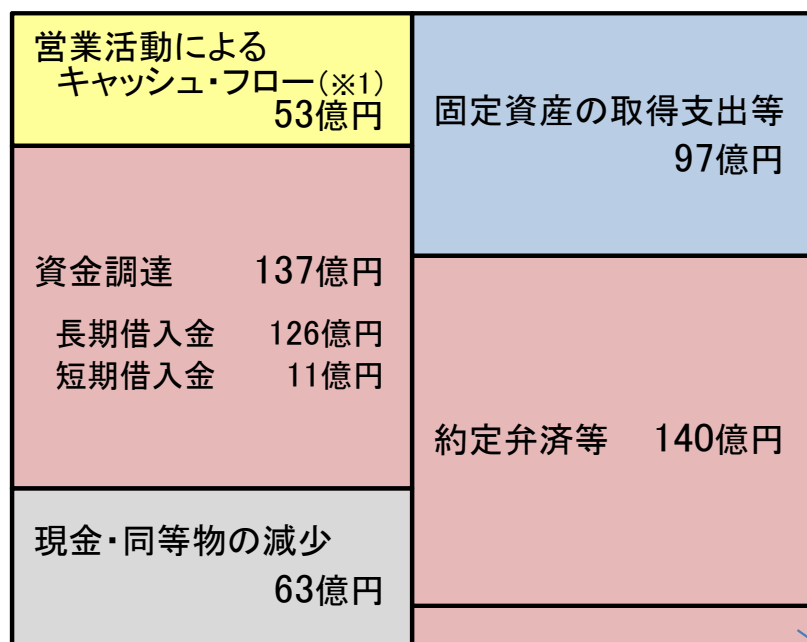
	売上高			営業利益		
	2013/4-9 実績	2013/4-9 期初予想	差異	2013/4-9 実績	2013/4-9 期初予想	差異
アルミナ・化成品、 地金	513	480	+33 (+6.9)	21	25	△4 (△16.9%)
板、押出製品	338	330	+8 (+2.4%)	11	15	△4 (△28.0%)
加工製品、 関連事業	628	650	△22 (△3.4%)	26	30	△4 (△12.3%)
箔、粉末製品	460	440	+20 (+4.7%)	8	10	△2 (△12.7%)
管理・共通	—	—	—	△15	△15	—
合計	1,939	1,900	+39 (+2.1%)	51	65	△14 (△20.9%)



2013年度 第2四半期

<源泉>

<使途>



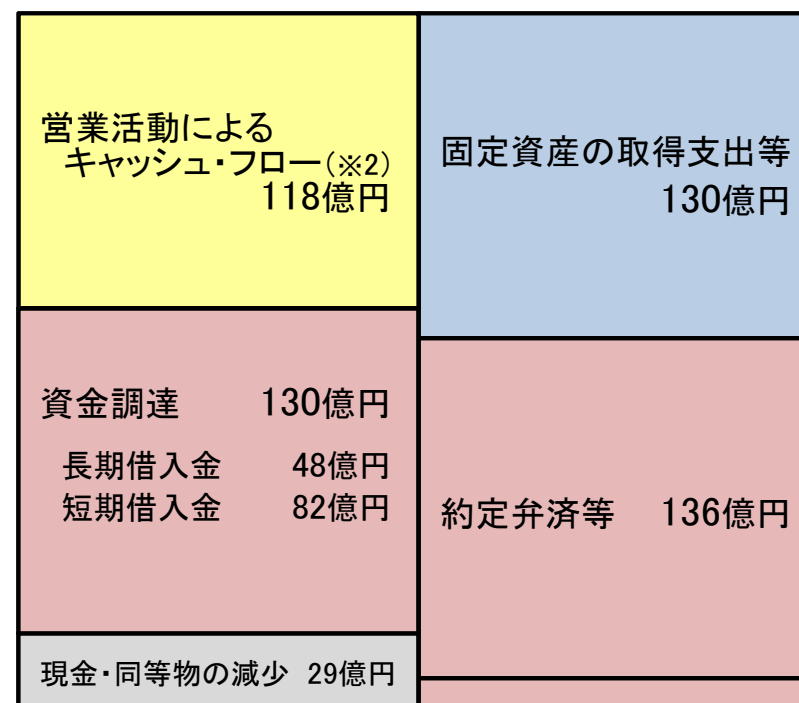
(※1)
 税引前当期純利益 41
 減価償却費 81
 運転資金 △52
 法人税等 △17

配当金支払い 16億円

2012年度 第2四半期

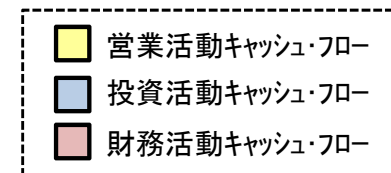
<源泉>

<使途>



(※2)
 税引前当期純利益 27
 減価償却費 78
 運転資金 32
 法人税等 △19

配当金支払い 11億円



設備投資・減価償却費 — 前年同期比



(億円)

	設備投資			減価償却費		
	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	差異	2013/4-9 実績	2012/4-9 実績	差異
アルミナ・化成品、地金	11	18	△7	21	17	+4
板、押出製品	23	21	+2	20	18	+2
加工製品、関連事業	17	21	△4	17	16	+1
箔、粉末製品	19	37	△18	23	27	△4
合計	70	97	△27	81	78	+3

通期業績予想 — 期初予想比



(億円)

	2013年度 予想 (10/30)	2013年度 期初予想	増減
売上高	4,000	3,900	+100 (+2.6%)
営業利益	120	145	△25 (△17.2%)
経常利益	100	120	△20 (△16.7%)
当期純利益	50	65	△15 (△23.1%)
有利子負債	1,850	1,850	—
ネットDEレシオ	1.5倍	1.4倍	—
ROCE	4.8%	5.6%	△0.8p

セグメント情報 — 期初予想比



(億円)

	売上高			営業利益		
	2013年度 予想 (10/30)	2013年度 期初予想	増減	2013年度 予想 (10/30)	2013年度 期初予想	増減
アルミナ・化成品、 地 金	1,050	950	+100 (+10.5%)	35	45	△10 (△22.2%)
板、押出製品	680	680	— (—)	25	30	△5 (△16.7%)
加工製品、 関連事業	1,310	1,330	△20 (△1.5%)	60	75	△15 (△20.0%)
箔、粉末製品	960	940	+20 (+2.1%)	30	25	+5 (+20.0%)
管理・共通	—	—	—	△30	△30	—
合 計	4,000	3,900	+100 (+2.6%)	120	145	△25 (△17.2%)

主要会社の業績予想 — 期初予想比



(億円)

	2013年度 予想			2013年度 期初予想		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属 (単体)	1,249	△25	△9	1,226	3	21
東洋アルミニウム (連結)	968	27	25	956	25	22
日軽エムシーアルミ (連結)	525	12	10	469	8	6
日本フルハーフ (連結)	528	23	22	510	26	26
日軽金アクト	344	18	18	341	18	18

設備投資・減価償却費 — 前期比



(億円)

	設備投資			減価償却費		
	2013年度 予想	2012年度 実績	差異	2013年度 予想	2012年度 実績	差異
アルミナ・化成品、地金	43	40	+3	41	38	+3
板、押出製品	39	46	△7	37	39	△2
加工製品、関連事業	44	32	+12	37	33	+4
箔、粉末製品	36	53	△17	52	53	△1
合計	162	171	△9	167	163	+4

設備投資・減価償却費 — 期初予想比



(億円)

	設備投資			減価償却費		
	2013年度 予想	2013年度 期初予想	差異	2013年度 予想	2013年度 期初予想	差異
アルミナ・化成品、地金	43	43	—	41	40	+1
板、押出製品	39	43	△4	37	34	+3
加工製品、関連事業	44	42	+2	37	35	+2
箔、粉末製品	36	46	△10	52	56	△4
合計	162	174	△12	167	165	+2